



西中学校だより

一本の樹

校訓 しなやかに すこやかに

令和7年3月3日
第11号
上尾市立西中学校長
宮田 純生

旅立ちの季節（不易と流行）

校長 宮田 純生

3月は、学校にとって旅立ちの季節です。教員として教え子が旅立つことは「大人への一歩」を踏み出すことの喜びとともに、共に生活した生徒が「巣立つ」寂しさを感じることももあります。

卒業生は、西中学校を巣立ち新たな進路での活躍を、在校生は、それぞれの学年を終え、一つ上の先輩としての活躍が期待されます。2年生は最上級生として学校を背負っていく役目、1年生は4月に新入生を迎え、先輩としての手本を示すこととなります。

さて、江戸中期の俳人として最も後世に名を遺した「松尾芭蕉」の俳諧理念が芭蕉の弟子が書いた「去来抄」という著書で説明されています。その中に「不易流行（ふえきりゅうこう）」という言葉が登場します。

松尾芭蕉は、「良い俳句が作りたかったら、まずは普遍的な俳句の基礎をきちんと学びなさい。しかし、時代の変化に応じた新しさも追い求めないと、陳腐で面白くない俳句しか作れなくなる」と教えています。

「不易流行」の「不易」とは、永遠に変わらないものを表します。変わらないものというのはどんなものでしょうか。「思いやり」「愛情」などは誰もが望む不変のものです。

一方、「不易流行」の「流行」とは、新しさを求めて変化するものを示します。音楽の流行曲やテクノロジーの進歩による機械の変化などは流行と捉えることができます。

「不易」と「流行」を話題にすると「新しいものに変わること」が良いか悪いかという議論になったりします。

「不易流行」はどちらか一方に固執することなく柔軟に物事を考えていく理念を説いていると私は思います。

変えるべきだ、変えるべきでないなどは、その人の生きている時代や経験によって変わります。単に「流行」を追うだけでは大事な「不易」を忘れてしまいます。

「新しいもの」、つまり「流行」を追うだけでは大切な「不易」（思いやり、愛情）を忘れてしまい、また、「不易」だけでは時代の流れに取り残されてしまいます。卒業する生徒も進級する生徒もこの機会に自分の考えはどうか整理してみましょう。

大切なのは、その時々でしっかり状況を見つめ、自分で判断し、「自分を変えることができるか」だと思います。

自分の考えを押し通し、他人の意見や状況を見ないで意固地になるよりも、変化を感じる気持ちを持ち、状況に合わせて変化できる柔軟性を持つことがこれからの人生で必要となるはずで

